

発展  
\* 1 1

第3章 図形の性質 1・三角形の性質

4 メネラウスの定理とチェバの定理 (その1)

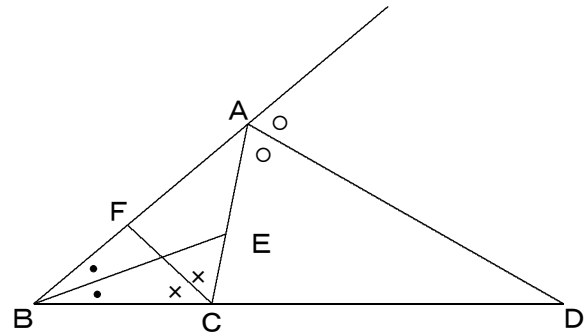
【No. 1 1の後で学習☆発展問題】 (1/6)

メネラウスの定理の逆 (証明問題)

◇ 《メネラウスの定理の逆 (証明問題) : 角の2等分線の利用》 学力化 →

★解法の技術★

右の△ABCにおいて、∠Aの外角の2等分線が辺BCの延長と交わるとき、その交点をDとする。∠B、∠Cの2等分線と辺AC、ABの交点をそれぞれE、Fとすると、3点D、E、Fは1つの直線上にあることを示せ。



【考え方】結論…3点が一直線上にあること

とくに、3点が三角形の3辺(またはその延長)上にあるとき  
⇒ メネラウスの定理の逆を用いる。

この問題では…

点Dは辺BCと交わり、点Eは辺CAと交わり、点Fは辺ABと交わるから、△ABCと直線DEFについて、メネラウスの定理を考える。

つまり、 $\frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$  を示せばよい。

⇒ 比の条件は与えられていないから、 $\frac{AF}{FB}$ ,  $\frac{BD}{DC}$ ,  $\frac{CE}{EA}$  を、それぞれ式で表すことができないか考える。 → [1]を参照。

[答 案]

[1] (証明に必要な辺をおきかえる)

◀三角形の各辺の分点を作る辺の比の積=1であることを示すため。

・BEは∠Bの2等分線であるから、

$$\frac{BC}{BA} = \frac{CE}{EA} \quad \dots \textcircled{1}$$

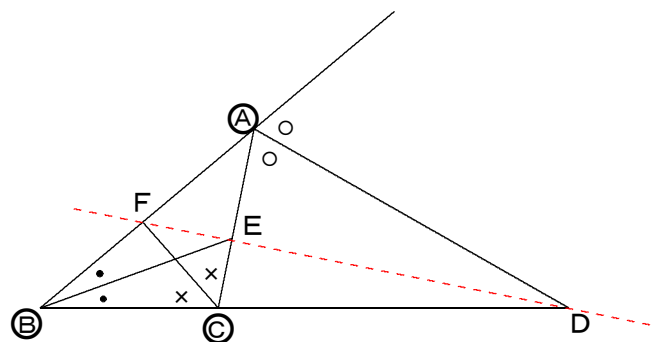
・CFは∠Cの2等分線であるから、

$$\frac{CA}{CB} = \frac{AF}{FB} \quad \dots \textcircled{2}$$

・ADは∠Aの外角の2等分線であるから、

$$\frac{AB}{AC} = \frac{BD}{DC} \quad \dots \textcircled{3}$$

◀三角形の外角の2等分線については、No.4(1/8)を参照



(次のページへつづく) →

## □ □ 【三角形の性質 No. 1 1 s (1 / 6)】 - 〈2枚目 / 2枚〉

➤ (前のページからのつづき)

2 (メネラウスの定理がいえることを示す)

したがって, ① × ② × ③ より,

$$\frac{BC}{BA} \cdot \frac{CA}{CB} \cdot \frac{AB}{AC} = \frac{CE}{EA} \cdot \frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \quad \dots \textcircled{4}$$

▲頂角を挟む2辺の比    ▲底辺の内分比

(④の左辺) = 1 より,

$$\frac{CE}{EA} \cdot \frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} = 1$$

これを書きかえると,

$$\frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

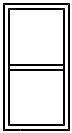
◀④の左辺を約分すると1になる。

◀メネラウスの定理の形にするため。

メネラウスの定理 → No.11(1/5)

3 (答をまとめる)

よって, メネラウスの定理の逆より, 3点D, E, Fは1つの直線上にある。



第3章 図形の性質 1・三角形の性質

4 メネラウスの定理とチェバの定理 (その1)

【No. 11の後で学習☆発展問題】 (4/6)

◇《メネラウスの定理の逆 (証明問題) : 平行四辺形の性質の利用》 **学力化** → /

★解法の技術★

平行四辺形 ABCD 内の 1 点 P を通り、各辺に平行線を引き、辺 AB, CD, BC, DA との交点を、順に Q, R, S, T とする。2 直線 QS, RT が点 O で交わるとき、3 点 O, A, C は 1 つの直線上にあることを示せ。

【考え方】 目指すのは、△QBS と直線 OAC について、メネラウスの定理が成り立っていることを示すことである。(これを示すことで「メネラウスの定理の逆」より、3 点 O, A, C が 1 つの直線上にあることが示せるから。)

- ① 与えられた条件下で、メネラウスの定理が成り立つ三角形と直線を見つける。三角形の各辺の分点を作る辺の比の積 = 1 とする。
- ② 平行四辺形の性質を使って、証明に必要な辺におきかえる。
- ③ メネラウスの定理の逆を適用する。

↓  
三角形の3辺(またはその延長)上の3点を通る直線

[答 案]

- ① (メネラウスの定理が成り立つ三角形と直線を利用して公式を作る)

△PQS と直線 OTR について、  
メネラウスの定理により、

$$\frac{SO}{OQ} \cdot \frac{QR}{RP} \cdot \frac{PT}{TS} = 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

◀【注意】OACは、この段階では直線であるかどうか不明。

◀重なる(共通な)分点からスタート

- ② (証明に必要な辺におきかえる)

平行四辺形の性質から、

$$QR = BC$$

$$RP = CS$$

$$PT = QA$$

$$TS = AB$$

であるから、これらを①に代入して

$$\frac{SO}{OQ} \cdot \frac{BC}{CS} \cdot \frac{QA}{AB} = 1$$

- ③ (メネラウスの定理がいえることを示す)

これを書きかえると、

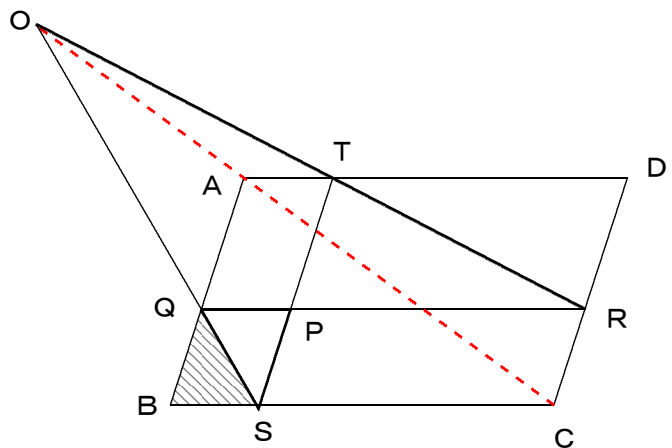
$$\frac{SO}{OQ} \cdot \frac{QA}{AB} \cdot \frac{BC}{CS} = 1$$

◀メネラウスの定理の形にするために並び変える。

◀△QBSと直線OACについてメネラウスの定理が成り立っている。

- ④ (答をまとめる)

よって、メネラウスの定理の逆より、3 点 O, A, P は 1 つの直線上にある。



■この例題の練習・応用問題は4題あり、これらは数専ゼミの教室で学習できます。